

オープンソース徹底活用 Scala実践プログラミング 正誤表

ページ番号	該当箇所	誤	正	補足
6	Note下の本文7行目	nageフィールド	nameフィールド	
22	2-1-7 予約語 枠内の予約語リスト		← (予約語リストに追加)	Scalaでは←(2バイト文字)も予約語なので、入れる必要があります。
27	1つめのコード5行目	if x > 3; if x > 4	if x > 3; if y > 4	
28	2つめのコード下の本文2行目	メソッドのthrow節	メソッドのthrows節	
34	1つめのコード	new String("aaa")	new String("aaa")	
38	2-2-9 ネストした関数 本文3~4行目	Listの各要素を、指定した文字列が含まれていたなら「アリ」、含まないなら「ナシ」	Listの各要素が、指定した文字列を含んでいたなら「アリ」、含まないなら「ナシ」	
44	2つめのコード下の本文1行目	Intでしょうか？それともStringでしょうか？	Long でしょうか？それともStringでしょうか？	
45	1つめのコード1行目、2つめのコード3行目	def hello =	def hello() =	
51	2-3-6コンストラクタでの処理 本文4行目	Personクラスのコンストラクタ数の	Personクラスのコンストラクタ 引 数の	
67	一番下	代入 し たします。	代入します。	
76	1つめのコードの上の本文、下から4行目	まずは 、protectedアクセス修飾子を	protectedアクセス修飾子を	一例しか紹介していないので、「まずは、」を抜くのが正しいです。
100	2つめのコードの上の本文、下から4行目	AbstarctURL型の値を取得しようとする	Ab str actURL型の値を取得しようとする	
110	1つめのコード下の本文1行目	カーリー化については第5章で	カーリー化については第 3 章で	
120	2つめのコード下の本文1行目	第5章で解説するカーリー化や	第 3 章で解説するカーリー化や	
120	1つめのコード下の本文1行目	repeat(3){ prittln("Hello") }	repeat(3){ pr intln("Hello") }	
120	1つめのコード下の本文2行目	repateオブジェクト	repeat オブジェクト	
137	1つめのコード	def factの行がコードの枠から外れている	この行をコードの枠に収める	
137	2つめのコード	resultの行がコードの枠から外れている	この行をコードの枠に収める	
141	15行目	Taill l Calls	TailCalls	
163	1つめのコード	def flatMap[B, That](implicit ... That):That	def flatMap[B, That] ...(implicit ..That) : That	") " が抜けています。
180	コラム1つめのコード下の本文1行目	argという名前	args という名前	
180	下から6行目	DelyedInitトレイト	Delayed Initトレイト	
182	1つめのコード2~3行目	abstract class Card sealed case class Num	abstract sealed class Card case class Num	誤りではありませんが、比較の趣旨に沿っていないので訂正します。
187	ソースコード内のコメント(2箇所)	sageAgeメソッド	Same Age メソッド	
193	本文4行目	変わりに	代 わりに	
198	1つめのコードのすぐ上の行	以下のようなhelloworld.scalaというファイル	以下のような H elloWorld.scalaというファイル	
224	9 行目	verifyConsuructor	verifyConst ru ctor	
226	下から11行目	例えば、DateRagngeクラスの	例えば、DateRangeクラスの	
233	リード文1行目	簡単なWwbアプリケーション	簡単な Web アプリケーション	
238	15行目	CURD(Create, Update, Read, Delete)	CR UD(Create, R ead, U ppdate, Delete)	CRUD(Create, Read, Update and Delete)が正しい用語です。
243	2つめのコード下の本文2行目	settter/getter	Setter/getter	
245	1つめのコード下の本文8行目	次の.item *" #> item.map{ ... }	□ 次の ".item *" #> item.map{ ... }	" □ "が抜けています。
247	15行目	procesメソッドは	processメソッドは	
263	6-2-7 Google App Engineで動かす	GAEモジュールを利用すると、Playで作成したアプリケーションを簡単にGoogle App Engine で動かすことができます。	ここでは、 play new した直後のアプリケーションを動かすための、簡単な概要を説明します。	本文中では、BigTableへの対応は説明していないので、ブックマークアプリは動きません。
269	下から2行目	vertic l esをNilに設定する	verticesをNilに設定する	
277	タイトル下リード文3 行目	implicit paramter	implicit param et er	
286	表の右列、下から2行目	ipmlicit parameter	i mplicit parameter	
288	コード上の本文、下から2行目	implicit paramter	implicit param et er	

オープンソース徹底活用 Scala実践プログラミング 正誤表

ページ番号	該当箇所	誤	正	補足
298	下から3行目	Ordered クラス の側から	Ordered トレイト の側から	
302	2つめのコード5行目	val key_char = "[^,]*".r	val key_char = "[^:]*".r	「,」のままだと、間違った結果になります。
306	コード10行目、下から2行目(2箇所)	count s	count	307ページの本文で「counts」に変更することも可能ですが、命名規約との整合性からソースコードを修正します。
309	2つめのコード2行目	val content:String	var content:String	
309	2つめのコード下の本文3行目	内容が は 変更されていない状態	内容が変更されていない状態	
310	① つめのコードのすぐ上の行	次のようなクラス定義に に なるでしょう。	次のようなクラス定義になるでしょう。	
317	③ つめのコードの上の本文、下から3行目	元のScalacBuidler	元のScalacBu il der	
318	Noteの上の本文、下から2行目	Generalized Type Constraint	Generalized Type Constraints	
324	下から5行目の④	@deprecateアノテーション	@deprecate d アノテーション	
329	コードのすぐ上の行	option型とのimplicit conversion	O ption型とのimplicit conversion	
329	コード3行目	def Apply[A]	def apply [A]	
338	配列型のマッピング表 右列3行目	Array[Short	Array[Short]	
338	表の下の本文2行目	read(byte[] b)メソッドをScalaから呼び出す	read(byte[] b)メソッドをScalaから呼び出す	
339	1つめのコード下の本文1行目	コマンドライン引 き 数	コマンドライン引数	
373	1つめのコード下の本文4行目	Yield[A] のコンストラクタは、	Yield ed [A] のコンストラクタは、	
373	本文下から11行目	yield(a) のように	yield s (a) のように	
373	本文下から7行目	見て見ましょう	見て み ましょう	
374	2つめのコード下の本文3行目	中断された場合はYield(k, v)が、	中断された場合はYield ed (k, v)が、	
381	1つめのコード下の本文7行目	shiftの返り値型はCというまたよくわからない型パラ	reset の返り値型はCというまたよくわからない型パラ	
381	下から14行目	kの引数型と と shiftの返り値型が	戻 の引数型とshiftの返り値型が	
402	本文5行目	TraversableOnc d e	TraversableOnce	
全般	(A) => B	(A) => B	A => B	どちらでも同じ意味ですが、後者の表記が一般的に使われます。

<本書サポートサイト>

<http://www.shuwasystem.co.jp/support/7980html/2998.html>

<秀和システム>

<http://www.shuwasystem.co.jp/>